

れづれなるまゝに、めづらしきやまひなりとて、このかさのぞやみをかきおければ、やまひさ
 るごとくによくなむ、みんひとゆ、しく、おもひぬべしとて、いさ、かいろにもいさず、略中
 もがさのさかりに、めをさへやみければ、まくらがみに、おもしろきもみちをひとのおいため
 りければ、おもひあまりて、

くもりつ、涙をぐる、わがめにも猶もみちば、あかくみえけり

〔儼塾集一〕唐可學八略〇中

五醫道略〇中

昔者、聖武皇帝天平九年、天下痘疫流行、夏秋之間、參議藤原房前及麻呂、左大臣武智麻呂、大宰帥
 宇合並薨、吁嗟哀哉、是時也、醫道未精、致此天札、愚讀史至是、未嘗不嘆息矣、唐之醫道不可忽諸、

〔續日本紀四十桓武〕延曆九年十二月辛酉、是年秋冬、京畿男女年三十已下者、悉發豌豆瘡。豆瘡俗云臥病者多、

其甚者死、天下諸國往々而在、

〔文德實錄五〕仁壽三年二月庚寅、是月京師及畿外多患皰瘡、死者甚衆、天平九年及弘仁五年有此瘡
 患、今年復不免此疫也、三月壬子、請名僧百口、於大極殿轉讀大般若經、限三日訖、攘災疫也、丁巳、

以穀倉院梁鹽、給京師患瘡瘡者、四月庚午、遣侍從五位上島江王、神祇大副兼內藏頭從五位上
 中臣朝臣逸志等、向伊勢太神宮、請除災疫、丙戌、詔曰、略中、朕之不德、撫育乖方、憂惕之誠、罔知所濟、

月令春夏下寬大之令、頌德化之政、以順天帝、以救災變、有司務修職任、欽奉時訓、罪疑從輕、賞疑從重、
 貴埋翳掩骸之仁、崇養老矜孤之德、其自今日昧爽以前、大辟以下、罪無輕重、未發覺、已發覺、未結正、已

結正、繫囚見徒、咸皆赦除、但八虐、故殺謀殺、私鑄錢、強竊二盜、常赦所不免者、不在赦例、令天下州郡、勿
 輸承和十年、以往調庸未進、優復百姓、息當年徭十日、其疫病者、長吏親自巡視、便給醫藥、諸所振贖、務

令優速、庶隱恤之旨、致感革於上、玄仁貸之風、獨凶札於中壤、